



巻機を目指せ！第5弾

三石尾根 大割～大兜～三石～巻機山

大野

【日時】2006年12月29日（金）－2007年1月2日（火）

【メンバー】L大野 SL佐貫 棚橋 関口 田村 栗原 山川

我々は、深い深い雪とヤブの中にいた。空荷のトップは胸までのラッセル。落ちれば頭まで潜り、文字通り地面に足がつく。ザックを背負ったセカンドもズボズボ踏み抜く。芋虫のような歩みで辿り着いたテン場で見たのは、南岸低気圧の接近と寒気流入の予報。泣く泣く撤退を決めて、大晦日の雲天で夢うつつに見た松健サンバ。

あれから2年。佐貫、棚橋、関口の三氏は3月にトレースを付けてしまった。厳しく長大な尾根であり、前回のあまりに惨めな敗退、年末年始の寡雪傾向、腰痛と体力の衰え。もう無理かもしれない・・・。

しかし。金城山と銅倉尾根に挟まれた不遇な山域にウネウネと続く山波。五十沢と下津川源頭の険しいスラブと細い尾根。最後に巻機に至る物語性。三石尾根は越後における究極の尾根の一つだと思っている。私としては、しつこく厳冬期のトレースに拘りたかった。正月山行が話題に上る11月には、三ツ石尾根の再チャレンジを提唱してメンバーを募っていた。

今回は、越後クラブが結集し、更に山川さんという強力な新人を迎えた強力な布陣。12月半ばの雪訓（八海山）、プレ山行（未丈岳）を同一メンバーで実施して気合十分。モンベル六人テンに7人という装備に事前訓練も完璧。少雪が問題であったが、天の救いか年末寒波もやって来た。今回行けなければもう後はない。

12月29日（金） 雪

朝一の新幹線で出発。前日に、車で出発した関口さんと塩沢駅で合流して六日町へ。前夜の出発だと仮眠場所と車の置き場所に困ることから朝発としたが、六日町駅にタクシーに迎えに来てもらえば、8時45分には入山口の林道入口についていた。

真っ黒であった2週間前と違って一応は銀世界。いかにも今回初めて積りましたという感じの雪が40cm程度。蛭窪部落から永松発電所へ向かう道には、除雪は入っておらず、最初からワカンで膝のラッセル。永松発電所に向けて林道が右折する所から枝道に入り、適当な所から尾根に取り付いた。偵察時に見たとおり、伐採されてヤブがない。360mで尾根に乗ってからも尾根の北側はおおむね植林帯で仕事道があると思われ、しばらくは問題なく進んでいくことができた。しかし、450m付近でヤブに突入。雪が軽いので、ヤブラッセルというより、雪が積もったヤブ漕ぎという感じ。雪が降りしきり、時に雷鳴も轟く中、高度を上げるに従い雪は深くなる。急登を登り切った辺りはヤブがうるさいが、ようやくラッセルするワカンの下にしっかりした雪を感じるようになってくる。830m付近で尾根を乗り換えると、しっかりしたブナの林となる。腰のラッセルとなり、先頭は空荷。テントも張れそうな感じであったが、もう少し頑張って880mの平らな林の中にスペースを見つけた。

雪はしんと降り、上空は風音がするが、ブナ森の中は風もなく、快適であった。

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

【ザックを下ろして】

- ついに本番を迎えてしまった。大割山 以降の行程はどうなるのか？ (佐貫)
- 明日、明後日とだんだん天気が良くなって、1月1日に巻機山の山頂で晴れてくれればなあ・・・。(栗原)
- 予想通りのヤブこぎラッセル。でも雪が軽くて助かる。明日一番、大割山手前のカベは、どうなっているか？ (関口)
- ここまでは、二年前より楽だった。明日も予定の幕場を越えたい。(棚橋)
- 金城の時ほど濡れなくて済んだ。順調で良かった！ (田村)
- 雪があつてひとまずほっとした。やぶとしめっぽい雪が、越後にきた実感を増す。明日はやぶが雪の下に隠れていてくれますように。(山川)
- また来てしまった…。雲天のビールまであと〇日？ (大野)



【雪のヤブ漕ぎ】

12月30日(土) 雪のち曇り

4時半起床。静かだ。30cm以上積もったが、雪かきは不要であった。

初っ端から腹～胸のラッセルである。930mにも張れそうであったが、風が少しあった。いよいよ、大割手前の壁に取りかかるが、視界がないので威圧感がない。20mほどヤブにつかまって強引に登るところで慣れない山川さんが苦勞していたが、意外に簡単に登ることができた。頂上直下の岩場を右から回り込んで登れば、頂上である。祝！佐貫さんの5回目の登頂。雪は、2年前の往路よりも多いが、復路よりは少ないくらい。

ここから稜線歩きは、頭が真っ白になるラッセルの予定であったが、ヤブが煩く雑念を振り払うことができない。先頭は、下り基調なので荷物を背負ったままラッセルしようとしたが、結局空荷に。こういう時は順番が重要で、栗原さんがミズスマシのように先頭を歩くと、セカンドでザックを背負った私は一歩毎に沈んで追いつけない。あまりのことにザックを置いたが、7人いれば、セカンド空荷でもよいくらいであった。雪で視界も利かない中で、黙々とヤブラッセルが続く。

1200mへの登りにかかる辺りで、ようやくヤブが収まり、ラッセルに専念できるようになる。天気も回復傾向にあり、少しずつ周囲の景色も見えるようになってきた。風が吹く2年前の敗退地点を過ぎて登りにかかる、クラストしており、あっさりとニセ小兜に辿りつ



【ヤブこぎラッセル】

いた。

吹けば厳しそうであったが、天気は回復傾向なので、山頂にテントを張った。

【ザックを下ろして】

- 大割山からの下り始めのヤブはひどかった。ラッセルで一日終わった。そろそろ冬型ゆるんで～！！（佐貫）
- やぶで腕が筋肉痛になりそうです。ラッセルは7人もいるのでとても楽ですが、セカンドはなかなか大変でした。トップで稜線をラッセルした時は、見事な恐竜の背中のようなリッジラインにほれほれしました。（山川）
- そろそろ越後の本領発揮！ヤブこぎが始まった。明日は雪稜か？（栗原）
- ひたすらラッセル。今度こそ行けそうな気配？明日からはいよいよ佳境。（大野）
- ここまで来ると引き返すのも大変。次第にプレッシャーを感じる。急に具合が悪くなったりしないか心配だ。疲れてます。（田村）
- 一昨年敗退した先で幕。今日は大人数でのラッセル。雪も軽くてラッセルハイ？（関口）
- 今日は、メンバー6人が頼もしく感じられた。明日もガンバロー！（棚橋）

12月31日（日）曇り

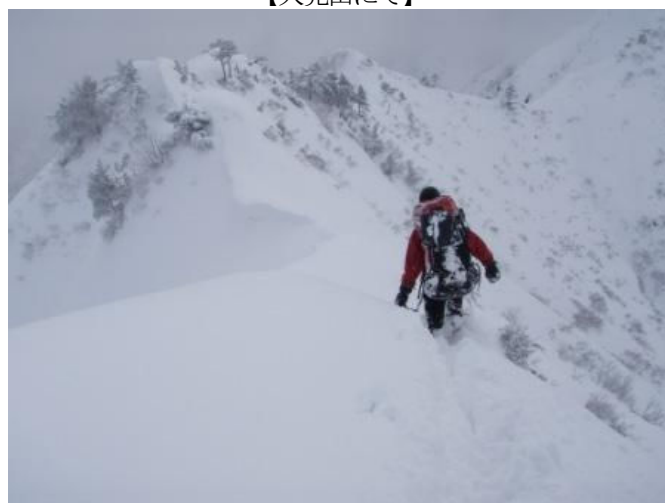
4時半起床。風は強くないが、視界は相変わらず良くはなく、雪も舞っている。

東に向かう尾根は1200mに小さなギャップがある。3月にはアイゼンに履き替えたというが、結構細いもののワカンで可。その先の下りは岩稜でロープが必要かもしれないというので身構えるが、田村さんの見事なルート取りでワカンのまま通過。視界は200m程ある中で、それなりに細く真っ白な雪稜が続き、実に爽快。小兜へもヒザからもものラッセルで快調に登る。小兜山頂付近は若干細くて堅いので、アイゼンワカンとする。この辺りも爽快な稜線であり、展望がないのが残念である。少し下って緩やかに登り返し、尾根にぶつかる終点が大兜山。11時に着いたら上出来と思っていた所に9時半に着いてしまった。

さて。南北の尾根は明瞭であるがルートは東。東側は少し下ってガスの中に台地が見え隠れしている。台地はただっ広く、ルート選択に迷うが、ある程度の視界があったこともあって予定の尾根には一発で乗ることができた。尾根を下ると1250mを切る辺りからガスの下に出て視界が開けた。ジロト沢源頭の水音を聞きつつ、雪稜を快適にとばす。



【大兜山にて】



【次郎頭を越えて下カケズに向かう】

次郎頭からは兩岸が切れた細い尾根ということで緊張していたが、綺麗な雪稜を歩いているうちに、いつの間にか通過してしまっていた。下カケズの登りも全く問題なし。山頂付近は真っ白な雪の尾根であるが、視界があれば苦労はない。

上カケズへの登りは、再び樹林帯となる。皆、疲れてきて、7人パーティーにもかかわらず、先頭集団が二人になってしまうことも。しかし、棚橋さん、栗原さんの頑張りで、ついに上カケズへ。昨日の時点では、まさかここまで来られるとは思っていなかった。佐貫さんの記憶によれば、そのすぐ先のコルが良いテン場らしいので、そこまで足を伸ばす。コルは、傾斜は多少あったものの、大きなブナの木が生える良いところ。時間も早いのもう少し先まで偵察に行ってみたが、次第に尾根が細くなってくるので、ここで幕とする。

水作りをしていると日が差してきて、今年最後の日が沈んでいくのが感じられた。思えば、よく来たものだ。ここまで来れば、もう引き返すことはあるまい。半月が煌々と静かなブナの森を照らし、白い山々が銀色に浮かび上がる幻想的な景色。

大晦日に年越し蕎麦を頂き、幸せな眠りに落ちた。

【ザックを下ろして】

- 朝一の小兜までの登りはキツかったー。ザイルを使わずに上カケズまで来られるとは思わなかった。(佐貫)
- 無風で快適な一日だった。ラッセルも順調にのびて、早くに幕営。テントの中でお茶を飲んでいると山行中初めての陽射しが森を照らして、素晴らしい1日だった。(山川)
- ごく順調！三ツ石が近くなった。だが巻機までまだまだ遠くて、気が抜けない。(栗原)
- 大兜からのルートがすんなり見出せて良かった。7人もいると行程もはかどる。(棚橋)
- テントから顔を出して西を見ると、空が紅色に。明日はおだやかな天候の下に三ツ石尾根を通過できるか、巻機の小屋まで…。(関口)
- 荷が重い…。でも、今日は楽しかった。明日は巻機まで行ければいいな。(大野)
- 思ったより今日は進めて、本当に良かった。計画完遂が現実味を帯びてきて、とてもうれしい。(田村)

1月1日(月) 晴れ後曇り

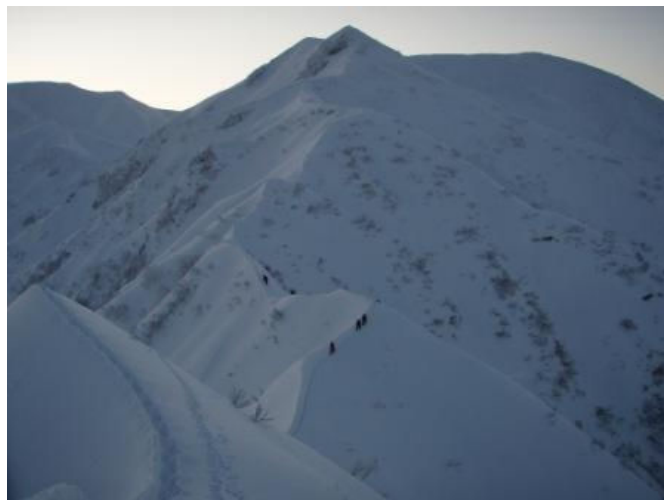
4時半起床。お節にお雑煮という朝食を食べて出発。今朝も空は青れ渡り、白い山々に囲まれている。

穏やかな樹林はすぐに終わり、稜線は細くなる。樹林のある斜面を登って1420mのピョコでは三ツ石山までのすっきりした雪稜が姿を現す。ロープを出す必要があるナイフはなかったが、両側はいずれも急激に落ち込んでおり、特に下津川側は遙か下に本流のゴルジュ帯が見えている。風もなく快晴、真っ白な雪稜、朝日が永松岳を赤く染め、振り返ると一筋のトレース、遙かに来し方稜線。最高の景色を独占する幸せ。初日の出を拝みつつ、三ツ石山への登りを一步一步進む。雪が固くなってきたので1550mを付近でアイゼンに履き替え。朝日を正面に受けて長い尾根の最後の一步を刻む。奥利根の山々が広がり、遠くに荒沢の尖った山頂も顔を出していた。

三ツ石からの主稜線は、表面をゴツゴツした氷が覆っている。28日に降った雨が凍ったので

あろうか。主稜線に出ると、関口さんが絶好調となり、時々潜る稜線を先頭で飛ばす。

三ツ石の下りは凍った急斜面となっており、アイゼンで慎重に下降。永松岳はひたすら遠い。永松を越えた辺りから少し風が出てきて、空に巻雲が目立つようになるが、天気は持っている。風這を過ぎ、長い斜面を登り切ると、巨大な巻機山の一角、牛が岳に辿り着いた。



【すっきりした雪稜】



【三ツ石山に到着。来し方をバックに】

眼下に辿り来た三ツ石尾根を見渡すことができる。皆と握手。

巻機のただっ広い雪原を歩き、避難小屋へ。米子側の一階がほぼ埋まった程度。二階の入り口から入ると、真新しい小屋で快適な一夜が約束されていた。

【ザックを下ろして】

- 三ツ石尾根から国境稜線を一気に巻機まで。永松の登りは4回目だけどいつも疲れる。最高の年明けに感無量の日でした。(佐貫)
- 上カケズから巻機の小屋まで一日で踏破できて本当に良かった。条件とメンバーに恵まれ良い山行が出来た。明日は慎重に下山しよう。(棚橋)
- 快晴無風の中、三ツ石尾根を登れた。年末年始の山行で、こんな好条件だったことは何回あっただろうか。今晚は快適な巻機避難小屋にも泊まれて、実に思い出に残る山行ができた。メンバーに感謝。(関口)
- 行けるのか半信半疑だったが、現実に今ここにいるということがうれしい。(田村)
- 朝、快晴の空に今日の成功を予感。そして今、巻機の小屋にいる。稜線で山々を眺めながら、次に計画する山を楽しみにしている。(栗原)
- 360度、見渡す限り山また山の展望。天気とメンバーに恵まれ素晴らしい一日だった。今日は巻機の小屋で宴会。(山川)
- 巻機、また来られた。三ツ石尾根はもう無理かと思っただけに、絶景の中ここまで来られて感無量です。(大野)



【牛が岳にて】

1月2日(火) 曇り時々雪、のち雨

本日も4時半起床。

視界はなく、雪が舞う中、避難小屋を後にする。視界は悪く、ニセ巻山頂は真っ白である。ルートに迷う所ではあるが、さすがに関口さんの指示は的確で、尾根を外さない。昨日の主稜線の様子からは、ガチガチに凍っているかと思っただが、意外と潜る斜面を慎重に下っていくと、7合目の手前辺りで雲の下に出てきた。ワカンに履き替え、後は重い雪をひたすらラッセルして下るのみ。

登山口から先はスキーのトレースを辿っていくと無粋な工事音がして、工事現場に。深沢の砂防施設工事らしいが、何もわざわざ雪の清水で正月二日から工事をやらなくとも良いのではないかと思ってしまう。ちょっと興を削がれてしまったが、道路が除雪されているお陰で少し楽ができるのも事実。気を取り直していつものように雲天に駆け込み、冷たいビールで乾杯！

12月の雪訓から始まる冬山合宿は、天気の巡り合わせに助けられ、無事完遂した。関口さんをして下の感想を書かしたとおり、充実した山行になったと思う。共にラッセルをしたメンバーに感謝。

【ザックを下ろして】

- 予定ルート完遂！雨にも降られず、無事に雲天へ。この山行の間ずっと夢見ていたビールで乾杯！みんなありがとう。お世話になりました。(佐貫)
- 予定通りのルートで、何より無事に下りてこられて良かった。ビールとご馳走に囲まれ、とても幸せ！（棚橋）
- 無事に下山できたことを、今しみじみとよろこんでいる。(田村)
- 最も満足できる雪山山行の一つだった。他に言うことなし。(関口)
- 年末年始、長くて身構えていたのに、終わってしまうとあっけない気もする。嬉しいけど、ちょっと寂しい。(栗原)
- めりはりのある充実した山行だった。メンバーの皆に感謝しています。心に残るお正月でした。(山川)
- 雲天の囲炉裏を囲んで酒を飲む。夢に見たエンディング。疲れた体が心地良し。来年はどこに行こうか。(大野)

【地形図】 六日町、兎岳、奥利根湖、巻機山

【行程】

- 蛭窪 (8:50) - 880m付近 (14:25) C1
- C1 (6:30) - 大割山 (9:00) - 1200m (13:40) - ニセ小兜 (14:30) C2
- C2 (6:30) - 大兜山 (9:30) - 下カケズ (11:50) - 上カケズ先 (13:20) C3
- C3 (6:30) - 三石山 (8:20) - 牛が岳 (12:30) - 避難小屋 (13:30) C4
- C4 (6:30) - 桜坂 (9:00) - 雲天 (10:00)

